

過疎地域の人口減少対策

3年2組4番 岡崎えこ

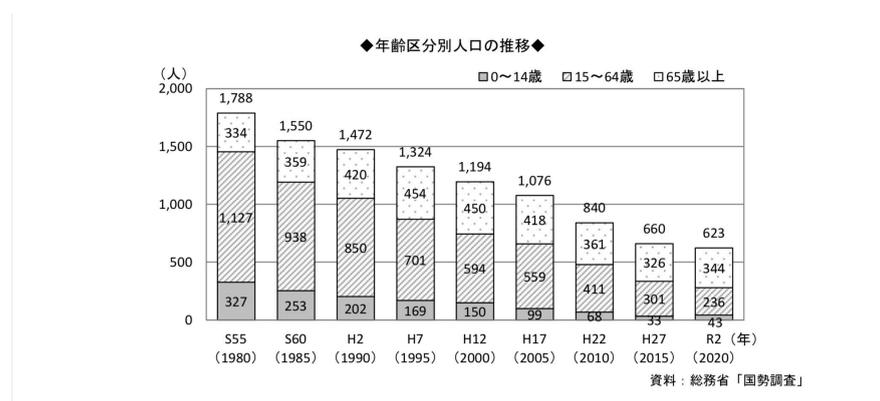
Keyword: 「過疎化」「少子高齢化」「人口減少」「地域活性化」「消滅可能性自治」

1. はじめに

私は、過疎地域の人口減少対策について探究した。私がこのテーマで探究しようと思ったのは、過疎化が進んでいる地元を活性化させ、いつまでも次の世代に受け継いでいきたいと思ったからだ。私の地元である吉野郡黒滝村は少子高齢化や若者の都会への進出などで年々人口が減少している。そのため、村の魅力をたくさんの人に知ってもらい、自分にできることを見つけて、人口減少対策や地域活性化に貢献したいと思った。

2. 序論

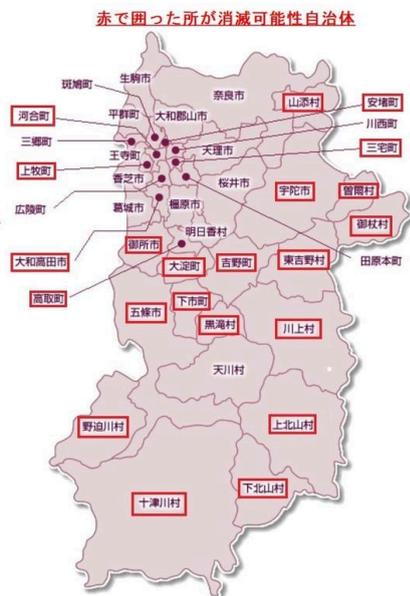
私は、このテーマを探究していくにあたって、人が都市部に流出していく原因とその対策としてどのようなことをすればいいのかという問いを立てた。現状、黒滝村の人口の推移をみると、総人口は年々減少し、1980年に1788人いたのに対し、2020年には623人に減少している。また、出産年齢人口は減少の一途を辿っているのに対し、高齢者人口はほぼ横ばいで推移していると分かった。ここで、まず黒滝村や他の市町村との比較をするために、奈良県の消滅可能性自治体を調べた。消滅可能性自治体は、2050年までの30年間で、子どもを産む中心になる年齢層の20歳～39歳の若年女性人口の減少率が50%を超えると予想される自治体のことである。(自治体ワークスWEB)また、人口が都市部へ流出していく理由と地域活性化の促進を考えるために、黒滝若者会議という黒滝村在住、出身の10代から30代の若者で意見を共有するイベントに参加した。最後に、黒滝村役場を訪問し、企画政策課の課長にインタビューし、先行研究や若者会議で得た意見や情報をもとに考えた私の意見を共有した。



(黒滝村の現状【黒滝村総合計画 後期基本計画 資料編】，2022，p.1)

3. 本論

奈良県の消滅可能性自治体を調べて分かったことは、奈良県南部のほとんどがその自治体に属しており、黒滝村も将来自治体として維持していくことが難しくなる危険性があることだ。しかし、奈良県南部の大半がその自治体に属している中で唯一属していない市町村がある。それは黒滝村に隣接している天川村である。



(奈良県の消滅可能性自治体, 2024)

消滅可能性自治体からの脱却に成功していると言える天川村と黒滝村の違いは何かという所にまずは視点を置き、探究を進めた。

まず、村の面積における森林が占める割合はどちらも97%と高く、中心になる産業も共に林業である。黒滝村と天川村は隣接しているため私はよく訪れるが、その時に宿泊施設が多いことと自然を活かした観光スポットで観光客を増やす政策に力を入れているという印象を受けた。実際黒滝村でも宿泊施設やキャンプ場など観光客のための施設はあるものの、天川村よりその知名度が低いと感じた。天川村村長は、「子どもを山や川といった自然に触れさせたいという考えの若い夫婦が移住してきてくれたことも要因の一つではないか。また、村には温泉をはじめとする観光に関連する仕事もあるから」(奈良県だより, 2024, p.19)と、都会には無いものをアピールすることが重要だと述べている。天川村のように知名度を高め、観光客を多く呼ぶことで黒滝村をたくさんの人に知ってもらい、少しでも興味を持ってもらうことが地域活性化の第一歩になると考えた。また、天川村に魅力的な観光地が多いことから、そこに行くまでの道のりにある黒滝村の道の駅にたくさんの人が足を運びそこで土産を買ったり、食事をすることで経済的な地域活性化に繋がっているということも分かった。

次に、2024年7月に開催された黒滝若者会議に参加し、たくさんの人と黒滝村の未来について意見交換した。そこで出た黒滝村の課題は、空き家問題や交通手段が限られることや知名度の問題だった。私たちはこの課題の中で知名度の問題について何ができるか考えた。その結果、参加した全員で黒滝村の紹介動画を作り、完成させた。一方で若者会議では課題だけでなく黒滝村のいい所も共有することができた。静かで意外と住みやすいことや、自然が豊かで都市部ではできない経験もできることは黒滝村の魅力であると考えた。その魅力を多くの人に伝えることを目的として、上述の動画のアイデアに反映させることができた。

最後に黒滝村役場を訪問し、企画政策課の課長とお話をさせていただいた。まず、これまで行ってきた自分の活動を説明し、調べていく中で分からなかったことをインタビューした。黒滝村役場としては、人口減少対策のために若者定住促進のための住宅新增改築や、黒滝村空き家リ

フォームなどの支援金を出すことや、黒滝村子ども・子育て支援事業計画の策定などを行っているということが分かった。

また、人口減少や、少子化対策の答えは分かっているが、それを実現するための方法が困難を極めると仰っていた。お話を伺ったあと、公園作りの提案をした。村に公園を作ることで村の魅力を増やせることはもちろん、子育て世代への場所の提供や高齢者などの憩いの場になると考え、それが村民の定住や地域活性化に繋がればいいと思った。私は、中学生の時にも総合的な学習の時間で役場に訪問し、公園作りの提案をしたため、再度村に対して提案を行い、いい意見交換の時間にすることができたと考える。

4. 結論

過疎化や少子高齢化の問題は黒滝村だけでなく、日本全国で問題とされている課題のひとつである。年々減少していく人口に対してどのように対処しているかは、役場への訪問でたくさんの事例を紹介していただき、詳しく知ることができた。黒滝村では、移住者に対してたくさんの支援制度がある一方で、それが移住者に知られていないのが現状だと感じた。このように支援が充実していることを知ってもらえることができれば、人口減少対策に貢献できると思った。

5. おわりに

過疎地域の人口減少は日本全国で深刻な問題になっている。仕事や利便性を求めて都市部に人が流出するのは自然なことであり、市町村がどれだけいい政策を掲げていても、この問題を解決するには限界がある。しかし、過疎化対策のためにそれぞれの市町村が行っている政策を知っていたら移住先の視野としても考えられるのではないだろうか。また、それぞれの市町村の魅力を発信し、それを見た人たちが村に住むことに価値を見出してくれたら過疎化対策に繋がるはずである。この探究活動を通して、過疎化に対する理解を深め、解決策を考えるだけでなく、自分の住んでいた村の地域活性化について考えることで、改めて黒滝村を大切に思うことができた。黒滝村の未来を守るために、これからも行事などに積極的に参加し、地域活性化に貢献していきたい。

6. 参考文献・出典

黒滝村の現状、黒滝村、

<https://www.vill.kurotaki.nara.jp/cms/wp-content/uploads/2022/04/e6d996a2aed03140d5551a51bcc94fe.pdf>

子育て支援 | 黒滝村ホームページ、https://www.vill.kurotaki.nara.jp/kurasi/child_support/

奈良県の消滅可能性自治体-GOOD LUCK、[blog.jp](https://tenichi.blog.jp/archives/61449423.html)、

<https://tenichi.blog.jp/archives/61449423.html>

知事コラム/奈良県公式ホームページ、奈良県、<https://www.pref.nara.jp/66478.htm>

消滅可能性自治体とは？定義と現状を確認し、人口減少時代に取り得る対策を考える、自治体ワークスWEB、<https://jichitai.works>

県民だより奈良 2024年6月、奈良県公式ホームページ、<https://www.pref.Nara.jp>